

1 主題構成表

主題名「郷土愛」(中学校・第3学年)

資料名「世のため人のため」(松尾 国松)

<p>■ 内容項目 C(16) 「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」 郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。</p>	<p>■ 内容項目から見た生徒の実態(意識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化等について学習しており、地域の活動に興味・関心をもって、自ら地域行事に参加しようとする意識がある。 ・地域や社会の発展に尽くしてきた先人等によって、今の自分たちの生活があるという自覚や、郷土を愛し進んで発展のために努めようとする意欲は弱い。 <p>(要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自我の確立を強く意識する余りに、自分が自分だけで存在していると考えがちである。 ・地域社会に尽くした先人や高齢者などの先達がいたことを知らない。 ・地域社会に尽くした先人達のことを知っていても、自分の生活と結び付けて考えたことがない。 	<p>■ 資料の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本資料は、岐阜市長であった松尾国松が、岐阜市の発展を願って様々な反対や困難に打ち勝って上下水道を完成させ、全国でも模範的な衛生都市の基盤をつくったことを取り上げている。 ・国松は市民の健康を考えた上で、水道建設の計画をしたが、市民の4分の3が反対をした。その状況にもかかわらず、計画を進めた国松の悩みや気持ちを考え、地域社会をよりよくしようと取り組む強い思いに気付くことができる。 ・さらに伝染病による幼児の死亡をなくそうと下水道建設の計画をするが、市民の強い反対や政府の補助金の打ち切り、戦争による物資不足などの様々な困難にぶつかった時の気持ちを考えながら、事業を続ける国松の故郷の発展を願う心の強さに気付くことができる。 ・国松の成し遂げた偉業や生き方を知ることによって、感謝と尊敬の念を育み、進んで郷土のために何かしようとする態度を育むことができる。
<p>■ 価値の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々は、一定の地域社会に住み、それぞれの歴史と文化をもつ。公共の場を共有して、相互の連帯意識によって結ばれるものである。 ・中学生の段階では、地域社会に尽くした先人等の努力により、現在の豊かな暮らしを営むことができていることを理解することが大切である。そして、先人等への尊敬の念や感謝の気持ちを深め、今後は自分たちの力で、地域に住む人々と共に、地域社会をよりよいものに発展させていこうとする意識を育む必要がある。 ・この時期の生徒は、地域社会の現状を把握したり、地域の人々との関係を問い直したりしながら、郷土に対する認識を深め、郷土を愛しその発展に努めようとする態度を育むことが大切である。 		

■ ねらい
現在の豊かな暮らしができているのは、将来を見据え、周囲の理解を得ようと粘り強く努力を重ねた先人等の努力によるものであることに気付き、郷土や地域に主体的に関わり、自分ができることは何かを考え、郷土の将来のために自分から行動しようとする意欲を育む。

<p>■ 展開の構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の健康を願っての提案に、市民の4分の3から反対をされた時の悩みや気持ちに共感する。 ・市民からの強い反対や政府の補助金の打ち切り、戦争による工事に必要な物資の不足等、事業継続が困難な状況を、類似経験から想起し、自分との関わりから考える。 ・様々な困難にも負けないで事業を続けた国松の実行力の素晴らしさを感じながら、郷土を愛する心が深く、その心が行動力になっていたことに気付く。 	<p>■ 基本発問(◎中心発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○上水道建設計画では、市民の4分の3が反対をしたが、松尾国松はどんな気持ちだっただろう。 ○下水道建設では、さらに様々な困難にぶつかったが、このような状況に置かれた時、自分ならどうするだろうか。 ◎様々な困難にも負けないで、国松が下水道工事を成し遂げたのはどうしてだろう。 ○地域社会をよりよくするために、自分にできることについて考えをまとめてみよう。
--	--

■ 「私たちの道徳」の活用(授業前・授業中・**授業後**・活用しない)
(活用の仕方) 本時の学習の内容を家庭に伝え、「ふるさとの発展に貢献する」(P203)を家の人と一緒に読んだり書いたりしながら振り返る。

2 学習指導過程

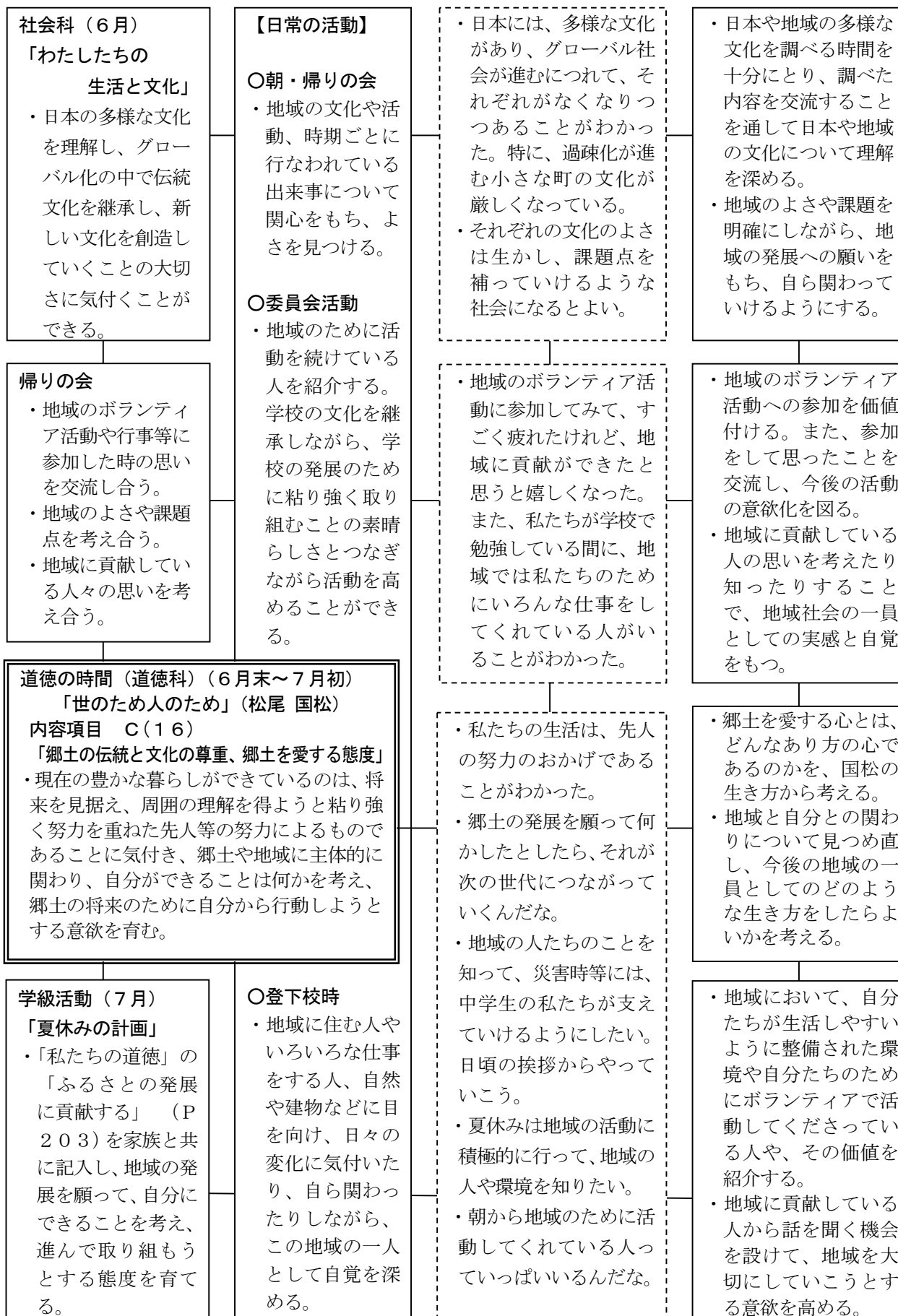
	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助		
導入	○小学校4年生社会科の「上水道」や「下水道」の学習を思い出してみよう。もしもこれらがなくなってしまうたら今の生活はどうなるだろう。 ・食事をしたり、風呂に入ったりできなくなる。 ・害虫や病原菌が増えて、感染症だらけになる。	・小学校4年生社会科「住みよいくらし」の「上水道」や「下水道」の学習を想起しながら、自分たちのまちの健康で住みよいくらしを支えている仕組みや人々について触れる。		
展開 前 段	◇資料提示をし、範読する。 ◇感想を交流する。 ・岐阜市の水道やトイレが当たり前のように使えるのは、松尾国松さんのおかげなんて知らなかった。 ・国松さんのように、みんなから反対されてでも多くの人たちのためにやり通すなんてすごい。 ○上水道建設計画では、市民の4分の3が反対をした時、松尾国松はどんな気持ちだっただろう。 ・きっと分かってもらえると思ったのに。 ・どうしてみんなのためにやろうとしていることが分かってもらえないんだ。 ・どんなに多くの市民に反対されても、困っている市民のためにやらなければならない。 ○下水道建設では、さらに様々な困難にぶつかったが、このような状況に置かれた時、自分ならどうするだろうか。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 〈やり抜く〉 ・やると決めたことは、多少の困難があってもやらなければならない。 ・公約として掲げた以上は、役割としての責任をもってやらなければいけない。 ・自分の都合だけで判断するのではなく、少数であっても困っている人の立場になってやらなければならない。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 〈やめてしまう〉 ・多くの人に反対されているのに押し通すのは、単なるわがままだと思われる。やめてしまう。 ・一緒に生活している以上は、身近な人に嫌われるようなことはできない。 ・自分にはやらなければいけないことが他にある。他人のことまで考えている余裕はない。 </td> </tr> </table>	〈やり抜く〉 ・やると決めたことは、多少の困難があってもやらなければならない。 ・公約として掲げた以上は、役割としての責任をもってやらなければいけない。 ・自分の都合だけで判断するのではなく、少数であっても困っている人の立場になってやらなければならない。	〈やめてしまう〉 ・多くの人に反対されているのに押し通すのは、単なるわがままだと思われる。やめてしまう。 ・一緒に生活している以上は、身近な人に嫌われるようなことはできない。 ・自分にはやらなければいけないことが他にある。他人のことまで考えている余裕はない。	・松尾国松の略歴を紹介し、その生き方について考えることを確認する。 ・率直な感想を交流し、国松の偉業に触れ、主人公の生き方について焦点を当てて考えていくことを確認する。 ・自分は正しいことをやっていると感じていても、多くの市民から反対されたら悩んでしまう気持ちに共感できるようにする。(人間理解) ・市長として、市民のために尽力をすることは当然であるという国松の使命感の強さに気付くことができるようにする。 ・自分ならどうするかという行為のみの話し合いにならないよう、考えた際の気持ちや理由を話し合えるように配慮する。 ・心の弱さが捉えにくい場合は、「反対されてもやろうと簡単に思えるだろうか」や、「以下3点のように、自分との関わりで考えるように問い返すことで、やらなければならない気持ちと諦めてしまいそうになる気持ちの葛藤に気付くことができるようにする。」 ①「多くの市民からの強い反対」 →「活動の呼びかけに全校や学級の多くの仲間から反対されたらどうだろう。」 ②「政府からの補助金の打ち切り」 →「近い仲間からも協力を得られなくなったらどうだろう。」 ③「戦争による物資不足」 →「他の問題が起きて物理的に活動ができなくなってしまったらどうだろう。」
	〈やり抜く〉 ・やると決めたことは、多少の困難があってもやらなければならない。 ・公約として掲げた以上は、役割としての責任をもってやらなければいけない。 ・自分の都合だけで判断するのではなく、少数であっても困っている人の立場になってやらなければならない。	〈やめてしまう〉 ・多くの人に反対されているのに押し通すのは、単なるわがままだと思われる。やめてしまう。 ・一緒に生活している以上は、身近な人に嫌われるようなことはできない。 ・自分にはやらなければいけないことが他にある。他人のことまで考えている余裕はない。		
	◎様々な困難にも負けないで、国松が下水道建設事業を成し遂げたのはどうしてだろう。 ・市長としてこの事業をやり遂げる責任がある。 ・粘り強く取り組み、きっと認められる。 ・多くの市民からの反対、政府からの補助金の打ち切り等、どんなにつらい状況であっても、苦しんでいる市民がいる以上諦めることはできない。 ・私はこの故郷で育てられた。この事業はこれから先に生まれてくる多くの小さな子どもの命を救うことにつながる。将来の岐阜市の発展のためにやり遂げなければならない。	【深めの発問】 ★この事業をやらなくても、自分は困らないのに、どうしてやらなければならないと考え、行動したのだろうか。 ・国松には、市長として岐阜市の発展を願うと同時に、郷土を思う深い愛の心があったことに気付くことができるようにする。 ・先人たちの偉業のおかげで、今の豊かな生活があり、先人への感謝と尊敬の念をもてるようにする。 ・今までの自分の姿を見つめ、松尾国松の生き方から「郷土の発展」について学んだことを明らかにし、郷土を愛する心をもつとともに、これからの自分の生き方について考えることができるようにする。		
展開 後 段	○地域社会をよりよくするために、自分にできることについて考えをまとめてみよう。 ・水道や水洗トイレがある生活をなんとも思っていなかったけれど、国松さんのおかげで今の生活ができることに感謝したい。しかし、災害がおきたらこの生活は当たり前ではない。だからこそ、日頃から地域の人に自分から関わり、地域のことをもっとよく知り、自分にできることを考えやっていきたい。			
終末	○身近な地域の自然や人々の暮らしを豊かにすることに励んでみえる方を招き、お話をさせていただく。	<変容の見届け> ・「これまで自分は当たり前のように生活してきたけれど、先人の地域に対する心とよりよい生活にしようとする努力によって今の生活があることが分かった。今の地域の課題を見つめながら、自分も地域の一員としてできることをやっていきたい。」などと自分を見つめ、郷土の発展のために前向きに歩もうとする気持ちをもっている。		

3 道徳の時間（道徳科）と他の教育活動との関連

<場の内容・ねらい>

<生徒の意識>

<指導・援助>



世のため人のため — 松尾 国松 —

昭和四年、岐阜市長として二期目を迎えた松尾国松は、市民の健康を考えた。

「飲料水」と「浴場」、「便所」の三つを改良して、衛生的な都市にしようとした。

国松は、まず上水道の建設を手がけた。当時、長良川に近い北部の井戸からは、良い水が出ていた。しかし、南部^{でいとそ}は泥土層の深い地質で雨が降り続けると水が茶色ににごり、白い布でこまなくては飲めなかった。それなのに、岐阜市民二万戸のうち一万六千戸は、上水道を作ることに反対した。

「水なんて井戸をほればどれだけでも出てくる。どうしてただのものに高いお金を出さなければならぬのか。」

「私ら北部は、とてもいい水が出ます。それなのに、どうしてわざわざ水道なんか作るのですか。」

「上水道を作っている都市は、全国でもごくわずかです。多大な費用もかかります。また早すぎます。」

こうした反対の声は、あちらこちらからあがった。それにひるむことなく、国松は市民の会合に出席して、上水道の必要性を説いて歩いた。昼間の勤めで疲れた体にむち打って、連日、会合に出ては説得し続けた。やつと、水質が悪くて上水道を必要とする最南部の地から、まず工事を始めることにこぎつけた。

上水道工事の経費は、当時の政府の見積もりでは約三百万円であった。岐阜市の年間予算が百万円ほどであったから、いかに多くの金額が必要であったかを知ることができる。国松は、それを切りつめて、百六十五万円を予算化した。政府の見積もりの約半分でやりとげるために、次の二つのことを考えた。

一．仕事の無駄^{むだ}を省いて能率を上げること

同じ経費で二倍の仕事ができれば、結果として、経費は半分ですむという計算である。

二．岐阜市独自の材料を使用すること

材料を買い入れれば高くつくので、自ら材料を作るという方針をとった。例えば、当時一本五円する土管が、二円三十銭でできた。土管は水道工事に最も多く使う材料で、そのうえ、簡単に製造できたので、すぐ実行した。

この結果、工事は進展し、わずか四ヶ月後には、給水できるようになった。

南部の給水が始まると、北部の世論も変わり、第二期工事に取りかかることができた。しかし、途中で政府の方針が変わり、総経費の三分の一を占めていた国からの補助金が打ち切られることになった。上水道工事は危機に直面した。しかし、南部の人たちの喜ぶ姿に接し、市民のことを考えると、国松はここで引き下がることはできなかつた。国松は寸暇を惜しんで、何度も何度も上京して、上水道設置の必要性を、政府の担当者に熱心に説いて回った。ついに国松の熱意が通じ、今までどおり補助金を出してもらうことに成功した。

こうしてようやく岐阜市の上水道は完成したのであった。

「何日間も、雨がほとんど降らないのに、上水道のおかげで、おいしい水がたくさん飲めてありがたい。」

「私たちの市では、各家庭への引き込み管まで市が負担してくれた。」

「上水道ができたので、風呂屋がたくさんできた。おかげで毎日、気持ちのよい風呂に入ることができるようになった。」

と、市民は喜んだ。

当時、岐阜市は、いろいろな伝染病により、幼児の死亡率が高かつた。何としても、蚊や蠅の発生を防がねばならない。そこで国松は、汚水がひとところにたまるないようにするために、地下に下水道を設置すると同時に、くみ取り式の便所を水洗式の便所にするを思い立った。

この工事は、上水道よりさらに多大な経費を必要とした。そのために、少ない費用で何とか完備しようとして、分流方式という新しい方法を生み出した。これは、家庭から出る汚水だけを、雨水とは別にして処理する方法である。この工事に要する経費は、従来の方法の半額であつた。しかし、この方法や水洗便所にしようとする国松の構想に対し、疑問に思う者や不安の気持ちをい多く市民も多数あつた。

「糞尿は、農家の大事な肥料だから、それがなくなったら、私たちは高い肥料を買わなければならなくなる。」

「本来なら二倍かかる工事を、こんなに安くやって大丈夫なのか。」

「いくら見積もつたといつても、金がかかり過ぎる。」



□上水道施設（岐阜市鏡岩水源）
※現在は「水の体験学習館」として利用されている。

政府も、一地方都市で、全国に例のない百パーセントの普及を目指した下水道工事であることと、新しい分流方式に不安をもっていた。

国松は、「糞尿は、すでに名古屋市が、処理した衛生的な肥料を安く農民に分けている。下水道工事のために、他の事業を圧迫することは絶対にしない。」と、市民を説得して歩いた。また、政府の許可を得るために、市の幹部を東京に常駐させ、毎日電話で激励した。

こうした国松の粘り強い説得のおかげで、昭和九年に工事にかかることができた。最初のうちは、工事は順調に進んだ。しかし、昭和十二年に日中戦争が始まり、それが太平洋戦争へと経過していくにつれ、セメントや鉄筋などのいろいろな物資が不足した。各家庭からは、鍋や釜が、寺からは鐘までが供出させられていた。また、労働力が不足し、小学生までが工場で働いた時代である。この戦争の最中、日本中のどこで下水道工事をやっていたであろうか。セメントや鉄筋を、誰がこの工事のために都合してくれたであろう。工事材料の不足する中で、最後は代用セメントまで使い、第一期工事は、戦争たけなわの昭和十八年に完成したのである。

この完成で、岐阜市は伝染病がほとんど発生しなくなり、全国でも模範的な衛生都市となった。

出典 岐阜県教育委員会 郷土の資料 「郷土史研究にうちこむ」(平成十三年十一月)